道院だより

しおかぜ

第 139号
2026年 11月 3日発行

少林寺拳法 塩竈道院
仙台杜都道院 発行
取材発行責任者 鎌田礼二
TEL 365-9626 FAX 363-8155
meil : shorinji@c-marinet.ne.jp

仙台市武道祭開催

10月18日(日)、「青葉体育館」で「仙台市武道祭」が開催されました。今回、1名だけの競技参加で、淋しい大会参加となりました。

来年は、もう少し競技へ力を入れて行きたい考えています。



2026.10.31 東北連合会(山形国際ホテル)

東北連合・山形県連50周年祝

10月31日(土)山形国際ホテルを会場に「東北連合会」が開催されました。「山形県少林寺拳法連盟設立50周年祝賀会」を開催で東北6県より約80名が参加し盛大に開催されました。

開催前に記念講演として白鷗大学教育学部教授の「湯川進太郎」さんによる「武道と感情」(稽古における思想と方法論の観点から)と題し、講演をいただきました。「スポーツと武道の違い」、「術と道の違い」を中心に講義いただき、少林寺拳法の教えと重なるところが多々あり、大変参考になりました。

「山形県連盟設立50周年祝賀会」では、懐かし拳士と旧交を温めることができ、今後の活動に向け力をいただきました。ありがとうございました。

大澤隆管長 縁起

挑むことを楽しむ

熊本地震、千葉県豪雨、秋田県の洪水災害などにより被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。復旧に向けて今なお大変な日々を過ごされている方も多いことと思います。一日も早く穏やかな日常が戻ることを願っております。

さて、先月、本山では達磨祭を開催し、法要を含め約3百50名の皆様にご参加いただきました。今年度も昨年度に引き続き、師家のリードにより「千本突」を行い、約2百名が一丸となって挑みました。また、熊本の被災地ともインスタライブでつなぎ、14万百円の募金を復興支援に役立てていただくこととなりました。

さらに、中堅道院長“鍛錬”特別合宿には、41名の中堅道院長、支部長、幹部が集まり、これからを担う指導者同士が共に研



2026.10.17 岡部好孝先生九段祝(サンセール盛岡)

今後の予定

◎ 11月 14日（土）～ 15日（日） 地域社会指導者研修会（宮城県武道館）
◎ 11月 22日（日）特別稽古・入門式（塩竈道院専有道場）
◎ 11月 29日（日）鎌田礼二議会報告会
◎ 12月 26日（日）昇級試験・専有道場大掃除・忘年会（塩竈市内）



鑽を深めました。

これらに共通するのは、「挑む」ということです。何かに挑戦しようと思っても、失敗したらどうしよう、思い通りにならなかったらどうしようと考え過ぎてしまえば、何も始まりません。まずやってみる。そして、うまくいかなければもう一度やってみる。その繰り返しの中で、人は成長していきます。

修行も同じです。一つの技ができるようになったことを終着点とせず、その先に新しい目標を見つけていく。指導者になることも、誰かのために一歩踏み出すことも、勇気が必要です。しかし、挑戦するからこそ、やりがいや喜びが生まれ、その先に新しい景色が広がります。

開祖は「逃げるな、忘れろ、楽しめ」と説かれました。困難から逃げ続けるのではなく、失敗や嫌なことにとらわれ過ぎず、前を向いて人生を楽しむ。そのためにも、何事にも挑むことのできる強い心と、周囲の人と喜びを分かち合える優しい心を養っていきたいものです。

挑戦することに年齢は関係ありません。いくつになっても、自分を成長させるため、また誰かを幸せにするためにできることがあります。まずは自分自身が修行を楽しみ、その姿を周囲に広げていきましょう。

今年も残すところ二か月となりました。「もう一度やってみよう」「もう一歩進んでみよう」と、自分自身の心に火を灯す11月にしていただきたいと思います。

朝晩の冷え込みも次第に厳しくなってまいります。どうぞご自愛のうえ、仲間と共に楽しみながら、今月も日々の修練に励んでまいりましょう。

中国古典 紹介

小人の過つや必ず分る（しょうじんのあやまつやかならずかざる）

『論語』

「文る」とは、表面を取り繕うことである。だから、「小人は、失敗をやらかすと、取り繕うことばか考える」となる。孔子の弟子の子夏という人物が語ったことばだという。「文る」ことがなぜまずいのか。第一に、どうしてこんな失敗をやらかしたのか、その原因を究明しようとする姿勢に欠けるので、二回、三回と同じ失敗を繰り返す恐れがあること。第二に失敗したことに対する反省がないので、人間としての進歩も向上も期待できないことだ。

むろん君子にも失敗はある。しかし、君子はかりに失敗をおかしても、気づいたら即座に改め、常に反省を怠らない。だから、同じ失敗を繰り返さないのだという。やはり孔子の弟子に曾子という人物がいるが、この人は、「吾、日に三たび吾が身を省みる」と語っている。われわれも、月に一回ぐらいは、「吾が身を省みる」ことがあってもよいのではないか。

